



3 気仙沼・本吉消防本部の取り組み

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部 畠山 光 氏

当地方の平成27年の救急出動は3478件で、1日に約10件出動し、管内人口の26人に1人が搬送され、救急車7台で対応しています。救急件数は高齢化に伴い増加傾向で、65歳以上は全体の66%になります。

救急隊は119番通報後、平均9分で現場に到着します。到着後すぐに命に直結する異常を確認し、必要な処置をします。その後、発症経過、病歴、かかりつけ病院から病状を判断し病院を決定するので、病気の情報やお薬手帳をまとめておくと、病院到着までスムーズにいきます。情報を記入するキットの配付事業は気仙沼市・南三陸町で行っています。対象の方は活用してみたいかがですか。

高齢者の転倒などのケガも増えています。室内の段差解消、手すり設置や部屋の片づけなどケガをしないための「予防救急」が大切です。いつもどおりの生活を長く続けるため、自分や家族が備える、地域や公的機関が支えることで住みよい地域を作りましょう。

第2部 おうちで在宅介護を体験して

おうちで在宅介護を体験して

吉田 耕得 氏

妻がALS（筋萎縮性側索硬化症）と診断された時は呆然としました。人工呼吸器をつけて声が出せず、寝たきりの妻をみて「妻の手足になろう」と決心しましたが、在宅介護は不安でした。多くの介護事業者さんと話し合ううちに「介護するのは一人じゃない」と感じるようになりました。実際に在宅介護を始めると毎日の介護事業者さんの訪問に安心しました。週1回の往診で村岡先生が普通に声をかけてくれるのが妻の楽しみでした。介護タクシーで外出したこともありました。夜は人工呼吸器の動作が心配で度々起きましたが、大変なのは介護されている妻だと思うと苦になりませんでした。毎日孫の話を聞く妻は本当に嬉しそうでした。

「命あるがぎり頑張ろうと思います」

妻が声代わりのパソコンで記した最後の日記です。命の大切さを感じ、自宅で家族で過ごした3年半はかけがえのない思い出です。お世話になった皆様に感謝しています。私の経験が役に立てば幸いです。



おうちで在宅介護を体験して

宮城県議会議員 守屋 守武 氏



東日本大震災で階上中学校避難所を運営していた2011年5月、妻のよし江は腰痛がひどく、病院で検査を受けた結果、乳がんと診断されステージ4との事で即入院となりました。当時、98歳の祖母は叔母が、77歳でパーキンソン病の母は妹に面倒をみてもらいました。

震災前から、祖母と母はケアマネジャーさんにお世話になっており、介護を担っていた妻の負担を軽減するように指導を頂きながら、デイサービスを利用したり、施設の手配をお願いしておりました。

妻は11月末に退院し自宅での療養を開始しましたが、ベッドから出る事が出来ない状況でした。ケアマネジャーさんに相談し、本人の希望を叶えられるようなサポート体制を組んで頂き本当に心強い思いでした。また、妻のご両親が自宅でサポート頂いた事も感謝に耐えません。この時は、祖母と母、そして妻の3人の介護プランに取り組んでいたのですが、地域包括ケアの方々からの支援がなければとても活動出来るような状況ではありませんでした。あらためて感謝申し上げます。